

緩和部会報告

研究分担者 須田隆文（浜松医科大学 教授）

研究要旨

【背景・目的】特発性間質性肺炎をはじめとする間質性肺疾患（ILD）は、しばしば適切な治療を行っても病状は進行性であり、終末期には強い呼吸困難を呈してQOLは低下する一方で、十分な緩和ケアを提供できていない現状がある。本部会では、ILDに対する緩和ケアを確立すべく、本邦におけるILD患者に対する緩和ケアの実態やニーズ、問題点を明らかにすることを目的とした。

【方法】「呼吸器内科専門医」、「ILD患者遺族」、「ILD患者」各々を対象としたILD患者における緩和ケアに関するアンケート調査を行い、包括的なILD診療における緩和ケアの現状調査を計画した。本年度は、全国の日本呼吸器学会呼吸器専門医（計約6,800名）を対象とし、「ILD患者の緩和ケアに関するアンケート調査」ならびに「特発性肺線維症（IPF）患者の呼吸困難に対するケアと終末期意思決定に関するアンケート調査」の2つのアンケートを作成し、調査を実施した。

【結果】各々のアンケートにつき、約3,400名の呼吸器専門医師を対象として2010年12月下旬にアンケートを発送した。2020年度内にアンケートの収集・結果の集計を実施する予定である。

【結語】実態調査に基づきILD緩和ケアにおける問題点や課題を同定して研究を推進するとともに、ILD患者に対する緩和ケアの普及に務める。

A. 研究目的

特発性間質性肺炎をはじめとする間質性肺疾患（ILD）は、しばしば適切な治療を行っても病状は進行性であり、終末期には強い呼吸困難を呈して患者のQOLは著しく低下する。一方で、ILD患者に対する緩和ケアは肺癌患者に対するそれと比較して立ち後れており、実臨床においてILD患者に十分な緩和ケアを提供できていない現状がある。2019年に静岡県下で実施したILD患者に対する緩和ケアに関する調査では、医師は、肺癌患者と比較してILD患者に対する緩和ケアの提供に困難さを実感していることが明らかとなった。また、ILD患者では、肺癌患者と比較して終末期における緩和ケアの介入が少なく、モルヒネの使用頻度は低いことが示されている。

そこで、これまで不十分であったILD患者に対する緩和ケアを確立して臨床現場での普及を目指すべく、びまん性肺疾患に関する調査研究班において本年度より緩和部会を発足させた。本部会では、本邦におけるILD患者に対する緩和ケアの実態やニーズ、問題点を明らかにすることを喫緊の課題と位置づけた。具体的には「呼吸器内科専門医」、「ILD患者遺族」、「ILD患者」各々を対象として、全国規模でのアンケート調査を行い、包括的にILD診療における緩和ケアの現状調査を計画している（図1）。全国規模での実態調査を進めることで、ILD患者に対する緩和ケアの抱える問題点や課題を明らかにして、それらを解決

すべくさらに研究を進める予定である。調査結果や研究成果に基づき、ILD患者に対する緩和ケアの確立に努めるとともに、広く実臨床への普及を目指したい。

B. 研究方法

本年度は、全国の日本呼吸器学会呼吸器専門医（合計約6,800名）を対象としたアンケート調査として、「ILD患者の緩和ケアに関するアンケート調査」（図2）ならびに「特発性肺線維症（IPF）患者の呼吸困難に対するケアと終末期意思決定に関するアンケート調査」（図3）の2つのアンケートを作成した。前者は、ILD全般における緩和ケアの現状や問題点に関して、肺癌患者・COPD患者に対する緩和ケアとの比較を含め調査する包括的な内容とした。一方、後者は、特発性肺線維症（IPF）患者の呼吸困難に対する薬物治療（オピオイドの使用状況など）や終末期意思決定に焦点をあてた各論的な調査内容とした。アンケート調査事務局を浜松医科大学 第二内科としてアンケートを作成し、アンケート発送・回収事務局を東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 緩和ケア看護学分野（宮下光令教授）として発送準備を行った。アンケートへの回答は無記名とした。

C. 結果

「ILD患者の緩和ケアに関するアンケート調査」「特発性肺線維症（IPF）患者の呼吸困難に対するケアと終末期意思決定に関するアンケート調査」各々のアンケートにつき約3,400名の呼吸器専門医師を対象として、2020年12月下旬に郵便発送した。無記名にてアンケートに回答をいただき、本年度内での収集・集計を予定している。

D. 考察

ILD患者は終末期には強い呼吸困難を呈してQOLは低下する一方で、十分な緩和ケアを提供されていない現状がある。ILD患者に対する緩和ケアを確立して広く臨床現場への普及することを目的として、びまん性肺疾患に関する調査研究班において本年度より緩和部会が発足した。

本年度は、前述の如く「呼吸器内科専門医」を対象とした全国規模でのILD患者に対する緩和ケアに関するアンケート調査を実施した。対象は全国の日本呼吸器学会呼吸器専門医約6,800名であり、大規模な全国調査となった。また、調査内容を総論と各論の2本立てにすることで、ILD全般における緩和ケアの現状や問題点を包括的に調査すると共に、呼吸器専門医師がIPF診療でしばしば遭遇する具体的な課題である「IPF患者の呼吸困難に対する薬物治療や終末期意思決定」に関して調査することとした。

今回実施した「呼吸器内科専門医」を対象としたアンケート調査では、医師の視点からILD患者に対する緩和ケアの問題点や課題が明らかになると考えられる。今後は、「ILD患者遺族」、「ILD患者」に対す

る調査研究をそれぞれ実施して、ILD診療の緩和ケアにおける問題点や課題を、医師・患者・家族の視点から包括的に明らかにすることが重要と考えられる。さらに、それらの問題点や課題を解決すべく研究を推進することでエビデンスを構築して、ILD患者に対する緩和ケアの確立に努め、広くILD診療における緩和ケアの普及を目指したい。

E. 文献

1. Akiyama N, Fujisawa T, Morita T, Mori K, Yasui H, Hozumi H, Suzuki Y, Karayama M, Furuhashi K, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Suda T. Palliative Care for Idiopathic Pulmonary Fibrosis Patients: Pulmonary Physicians' View. *J Pain Symptom Manage.* 2020 Nov;60(5):933-940.
2. Koyauchi T, Suzuki Y, Sato K, Hozumi H, Karayama M, Furuhashi K, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Yokomura K, Imokawa S, Nakamura H, Morita T, Suda T. Quality of dying and death in patients with interstitial lung disease compared with lung cancer: an observational study. *Thorax.* 2020 Dec 9:thoraxjnl-2020-215917.

F. 健康危険情報：なし

G. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし

H. 知的財産権の出願・登録状況：なし

図 1. 研究のマイルストーン

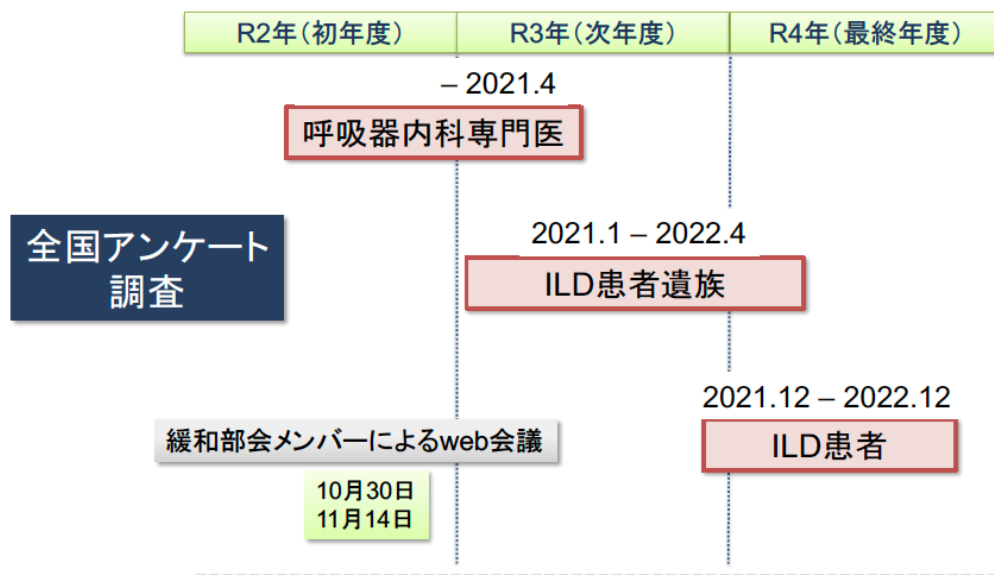


図 2. ILD 患者の緩和ケアに関するアンケート調査

ILD(間質性肺疾患)

患者の緩和ケアに関するアンケート調査

本アンケートでは、特に慢性進行性のILD患者の緩和ケアを想定しております。

アンケートの回答方法

- ほとんどの設問は選択式になっていますので、あてはまると思われる箇所に○をおつけください。
- 回答は全て統計的に処理し、個人の回答が明らかになることはありません。

記入例

II. 以下の項目からあなたの臨床に最も近いものを1つ選んで○をおつけください。

苦痛の緩和を行う際に困難さ、やりにくさを実感することはありますか					
	全くない	あまりない	時々ある	よくある	とてもよくある
ILD	1	2	③	4	⑤
肺癌	1	2	3	4	5
COPD	1	2	③	4	5

ご記入いただきましたアンケートは、同封の返信用封筒に入れ、**2021年1月12日まで**にご返封くださるようお願いいたします。

本調査に関するお問い合わせは、以下までお願いいたします。
 <調査事務局>
 浜松医科大学 第二内科
 連絡先：〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1
 電話：053-435-2263(医局)
 電子メール：biman@hama-med.ac.jp
 担当：藤澤 朋幸

アンケートは次ページからです

II. 言葉の定義について

- 緩和ケア**：今回のアンケート調査における緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOLを、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチを指します(WHO 2002)。

III. ILD患者の診療の実際についてお聞きします。

1-1.患者からどのような症状や訴えがありますか

	全くない	殆どない	時々ある	よくある	常にある
呼吸困難	1	2	3	4	5
咳	1	2	3	4	5
痛み	1	2	3	4	5
倦怠感	1	2	3	4	5
食思不振/体重減少	1	2	3	4	5
不安	1	2	3	4	5
抑うつ	1	2	3	4	5
不眠	1	2	3	4	5

1-2.患者の下記の症状マネジメントは先生にとって、どの程度の問題になりますか

	全く問題にならない	少しい問題	中等度の問題	大きな問題	とても大きな問題
呼吸困難	1	2	3	4	5
咳	1	2	3	4	5
痛み	1	2	3	4	5
倦怠感	1	2	3	4	5
食思不振/体重減少	1	2	3	4	5
不安	1	2	3	4	5
抑うつ	1	2	3	4	5
不眠	1	2	3	4	5

1-3.患者の身体症状マネジメントの実際について

外来で呼吸困難を有するILD患者がいた場合、何%の患者にモルヒネなどのオピオイドを処方しますか	約 () % <small>*5%未満で記載、0%の時は下記の欄には記載不要です</small>	
具体的などのオピオイドを使用することが多いですか(複数選択可)		
<input type="checkbox"/> コデイン	<input type="checkbox"/> モルヒネ	<input type="checkbox"/> その他:
外来で咳を有するILD患者がいた場合、何%の患者にモルヒネなどのオピオイドを処方しますか	約 () % <small>*5%未満で記載、0%の時は下記の欄には記載不要です</small>	
具体的などのオピオイドを使用することが多いですか(複数選択可)		
<input type="checkbox"/> コデイン	<input type="checkbox"/> モルヒネ	<input type="checkbox"/> その他:

1-4.患者の精神的な問題(不安、抑うつ、不眠)について

患者の精神的な問題(不安、抑うつ、不眠など)の対応に困った時、対応を相談できる場所はありますか

ない

ある：対応は現状、不十分だ ある：十分に対応してもらっている

上記であると回答した方で、相談するのほどになりますか

同じ施設内 他の医療機関

同じ施設を回された方で、具体的な部署があれば下記から選択してください(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 緩和ケアチーム	<input type="checkbox"/> 精神科/心療内科	<input type="checkbox"/> 看護師/専門看護師
<input type="checkbox"/> 相談室/MSW	<input type="checkbox"/> 臨床心理士/公認心理師	<input type="checkbox"/> その他:

図 3. 特発性肺線維症患者の呼吸困難に対するケアと終末期意思決定に関するアンケート調査

IPF(特発性肺線維症)患者の呼吸困難に対するケアと終末期意思決定に関するアンケート調査

アンケートの回答方法

- ほとんどの設問は選択式になっていますので、あてはまると思われる箇所に○をおつけください。
- 回答は全て統計的に処理し、個人の回答が明らかになることはありません。

記入例

II. 以下の項目からあなたの臨床に最も近いものを1つ選んで○をおつけください。

舌痛の緩和を行う際に困難さ、やりにくさを実感することはありますか					
	全くない	あまりない	時々ある	よくある	とてもよくある
肺癌	1	2	③	4	5
IPF	1	2	3	4	⑤

ご記入いただきましたアンケートは、同封の返信用封筒に入れ、**2021年1月12日**までにご投函くださるようお願いいたします。

本調査に関するお問い合わせは、以下までお願いいたします。
 <調査事務局>
 浜松医科大学 第二内科
 連絡先：〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1
 電話：053-435-2263(医局)
 電子メール：biman@hama-med.ac.jp
 担当：藤澤 朋幸

アンケートは次ページからです

II. 言葉の定義について

- 緩和ケア**：今回のアンケート調査における緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOLを、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチを指します(WHO 2002)。

III. IPF患者の呼吸困難に対する治療についてお聞きします。

(急性増悪時と慢性進行期の2つの場面)

1. 急性増悪で呼吸困難を有するIPF患者について

1-1. 回復する見込みをもって急性増悪の治療をしている時に、患者が安静時にも呼吸困難を訴えている場合を想定してください。

呼吸困難を有するIPF患者がいた場合 何%の患者にモルヒネなどのオピオイドを処方しますか	約 () % *5%刻みで記載してください。
-------------------------------------------------	----------------------------

具体的にオピオイドをどのように使用することが多いですか

モルヒネ経口の定期投与	<input type="checkbox"/> 全くない	<input type="checkbox"/> あまりない	<input type="checkbox"/> 時々ある	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> とてもよくある
モルヒネ持続静脈/皮下注射	<input type="checkbox"/> 全くない	<input type="checkbox"/> あまりない	<input type="checkbox"/> 時々ある	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> とてもよくある

具体的にどれくらいの用量を使いますか

	開始量	最大量	
<input type="checkbox"/> モルヒネ経口の定期投与	mg/日	mg/日	<input type="checkbox"/> 最大量を設けていない
<input type="checkbox"/> モルヒネ持続静脈/皮下注射 (ex.原液0.05mL/時間=12mg/日)	mg/日	mg/日	<input type="checkbox"/> 最大量を設けていない

1-2. 急性増悪に対して適切な治療を行いましたか回復することが期待できなくなった時に、患者が安静時にも呼吸困難を訴えている場合を想定してください。

呼吸困難を有するIPF患者がいた場合 何%の患者にモルヒネなどのオピオイドを処方しますか	約 () % *5%刻みで記載してください。
-------------------------------------------------	----------------------------

具体的にオピオイドをどのように使用することが多いですか

モルヒネ経口の定期投与	<input type="checkbox"/> 全くない	<input type="checkbox"/> あまりない	<input type="checkbox"/> 時々ある	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> とてもよくある
モルヒネ持続静脈/皮下注射	<input type="checkbox"/> 全くない	<input type="checkbox"/> あまりない	<input type="checkbox"/> 時々ある	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> とてもよくある

具体的にどれくらいの用量を使いますか

	開始量	最大量	
<input type="checkbox"/> モルヒネ経口の定期投与	mg/日	mg/日	<input type="checkbox"/> 最大量を設けていない
<input type="checkbox"/> モルヒネ持続静脈/皮下注射 (ex.原液0.05mL/時間=12mg/日)	mg/日	mg/日	<input type="checkbox"/> 最大量を設けていない